

令和3年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高須小学校	校長	杉原 妙子	生徒指導主事	徳廣 邦彦
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『いじめをなくそう みんな笑顔の学校生活』
-------	-----------------------

取組における育てたい資質・能力		
-----------------	--	--

人間関係形成	社会参画	自己実現
「思考力・判断力・表現力」 3	「協調性・柔軟性」 1	「アイデンティティー」 2

取組のねらい

○児童会が中心となっていじめ防止強化月間を設定し、人のよいところを書き表す活動を通して、協調性や相手を思いやる心を育む。また、学校全体で統一した取組を行うことで、安心して生活できる学校づくりへの参画意識を高める。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『全校で統一した取組』
----------	------------------------

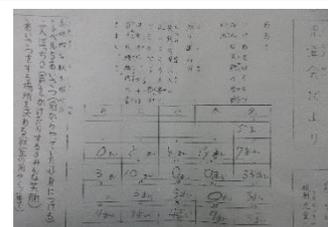
○児童会がいじめ防止強化月間を設定し、ねらいや取組み方を朝の集い（全校放送）で周知する。

○各学級、学級活動の時間で、具体的な取組み方を考え、目標を設定する。また、毎日帰りの会などで目標が達成できたかどうか振り返りを行う。

○人のよいところを花びらの形の紙に書き、台紙に貼っていく。

○期間中に児童会役員が各学級の取組みを確認し、がんばっている学級を紹介し学校全体の意識を高める。

○取組期間中だけでなく、期間後も各学級帰りの会等で、人のよいところを交流するようになった。



○生徒指導部を中心に各学年に合った目標を考え、統一した取組みを行う。



取組の成果と課題

○今年度、児童会役員の話合いの中で、同性だけでなく異性同士のいじめやトラブルを減らしたいという思いがあった。その為、全校に周知する際、男子は女子に、女子は男子に積極的に書こうと伝えるなど、主体的に考え、取組むことができた。

○アセスの結果では、生活満足度と「向社会的スキル」が1回目よりも2回目の数値が伸びた。

○取組期間が終わった後も、続けてよいところを見つけ合う取組みを行っている学級があった。

●昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響で、児童同士の交流や異学年交流の機会を取ることが難しかった。今後、高学年が主として行う取組を増やし、学校全体でつながりのある効果的な活動を取り入れていきたい。